

虫垂炎をお忘れなく

虫垂炎は、盲腸の先に突き出た小指程の大きさの先端が閉じた突起物である虫垂に、化膿（かのう）性の炎症が起こる病気です。急に激しい腹痛を生じ、外科的な治療を必要とする病気を「急性腹症」といいますが、虫垂炎はその中でも頻度の高いもののひとつです。発症のピークは 10 から 20 歳台ですが、小児から高齢者までどの年齢層でもみられ、男女差はありません。

虫垂炎は糞石（ふんせき）や異物などで虫垂の入り口がふさがることが原因だと考えられています。これにより、虫垂の内腔（ないくう）で細菌が繁殖して感染を起こし、急性の炎症を生じます。

発症の経過としては、上腹部やへそのまわりが痛み出し、次に 37 から 38 度程の発熱や吐き気、嘔吐（おうと）が起こります。数時間から 24 時間以内に痛みが右下腹部に移ってきます。

虫垂炎は適切に治療されれば予後の良い病気ですが、放置しておくと虫垂が破裂し膿瘍（のうよう）を形成したり、腹膜炎を起こしたりして重症化する恐れがあります。また、虫垂炎に似た症状は、尿路結石や急性腸炎、大腸憩室症、骨盤内の炎症などでもみられます。従って診断は症状、おなかの所見、血液検査だけでなく、超音波検査や CT 検査を行って確認することもあります。

治療は、軽傷のものでは抗生物質による内科的治療で治ることがありますが、中等症以上では緊急手術が必要です。腹痛と発熱、嘔吐（おうと）の症状が出ている場合は虫垂炎の可能性があるので、医師の診察を早く受けるようにしましょう。

平成 29 年 6 月

落合 英一